

自由研究発表

水銀汚染リスク軽減に向けた課題
ーカリマンタン島内陸部における小規模金採掘を事例にー
Challenges in Reducing the Risk of Mercury Pollution: A Case Study of Small-Scale
Gold Mining in Inland Kalimantan

笹岡 正俊 (北海道大学)

SASAOKA Masatoshi (Hokkaido University)

佐野洋輔 (早稲田大学)

SANO Yosuke (Waseda University)

インドネシア各地で行われている小規模金採掘は、採掘者たちに経済的利益をもたらす一方、森林破壊、水銀汚染を含む水質汚染、土地・資源利用をめぐる紛争といった問題を引き起こしてきた。インドネシアにおける小規模金採掘については様々な研究蓄積があるが、水銀を使用せずに金採掘を行っている地域を対象地として、将来の水銀利用・水銀汚染リスクを明らかにした研究はほぼない。本研究では、近年、送水ポンプを用いた小規模金採掘 (Artisanal and small-scale gold mining using water pump: ASGM-WP) が拡大しているが、水銀を利用せず高純度の砂金を採掘しているカリマンタン島中央部アポカヤン地域のある村を研究対象地として以下の課題に取り組む。まず、①SGM-WDP の拡大過程とそれに対する地域社会の対応、②SGM-WDP の経済的重要性と現金獲得手段としての意味、③SGM-WDP の環境影響、そして④村人が望む将来の開発 (土地・資源利用) のあり方を明らかにする。そのうえで、そこで得られた知見を踏まえて、①当該地域社会において、将来どのような土地・資源利用の変化が見込まれ、それは地域の暮らしにどのような影響を与える可能性があるか、②人びとがより持続可能性の高い生計手段を選び取るための課題は何か、そして、③その課題達成に向けて「よそ者」はいかなる役割を果たし得るのかといった問題について、特に水銀利用・水銀汚染を回避するための課題に焦点を当てながら議論する。